

施工マニュアル

必ず施工前にお読みになり、マニュアルに従って施工を行って下さい。

イシノールシリーズ

ウェットコート

ウェットバーナー



Konsho Co., Ltd.



紺商株式会社

〒940-0061 新潟県長岡市城内町3-7-8

C&Cグループ直通 / Tel. (0258) 32-4453

Tel. (0258) 32-4411(代) Fax. (0258) 32-4669

URL <http://www.konsho.co.jp>

東京・千葉・埼玉

ウェットコート・ウェットバーナーの施工にあたって

1. 下記の場合には、ウェットコート・ウェットバーナーの施工は避けて下さい。

①天候 —特に外部での施工—

a. 雨天時での施工

施工前／施工中／施工後に過剰な湿気や水がかかると、ムラになりますので雨天時には施工しないで下さい。乾燥養生の間にも雨があたらないよう、施工後の天候にも気をつけて下さい。

b. 暑い時期／気温25℃以上での施工

寒い時期／気温5℃以下での施工

石材が熱いと乾燥が早すぎ、冷たいと保護剤の浸透が悪く、いずれも深い浸透層を形成しないため本来の効果を望めなくなるため。

※ 気温が高くても日陰などで石材自体の表面温度が低ければ施工可能ですが十分に注意して下さい。

②石材の状態

a. 濡れている状態／湿気の多い状態

b. 石材下部から水が染み上がっている状態—斑点状

c. 目地周辺に水やコーキング材の油分シミがある場合

d. ワックスが塗布されている、またはされたことがある石材

特にバーナー等の凹凸仕上げ面では、石材の空隙に浸透したワックスが完全に除去することが難しいため。

⇒いずれの場合も保護剤の均一な浸透が妨げられるため、色ムラが発生します。

2. ウェットコート／ウェットバーナーを均一な色相に仕上げるための確認作業

水を散布するか洗浄時に水で均一な濡れ色になるかどうか確認をします。

新築時においても塗料、コーキング、モルタル等が付着していることが多くあります。目地周辺では、モルタル、コーキング等が石材断面、側面より染み込んでいる場合がありますので特に注意して下さい。

3. 裏面／側面処理材として使用しないで下さい。

セメントモルタルやコーキング材との接着力を落とします。

4. 前処理

a. 保護剤を塗布する前に必ず洗浄を行なって下さい。汚れた状態で塗布施工を行なうとそのままの状態で残り、後での除去が難しくなります。

b. 洗剤によっては、石材を痛めてしまったり（白くしたり）シミになったり広げたりというケースがありますので、イシクリーンシリーズの洗浄剤を使用して下さい。

ウェットコート塗布方法

(御影石研磨面／鏡面仕上げ専用)

予備テスト

- サンプル板等で、下記方法にしたがって塗布し、色調等の確認を行なって下さい。色調は塗布直後ではなく数日後の状態で判断して下さい。
- 前記を参照に塗布施工が可能かどうか石材の状態確認をしておいて下さい。

前処理

イシクリーンシリーズ洗浄剤で石材の汚れを除去します。

乾燥

石材を十分に乾燥させて下さい。
モルタル目地の場合は、目地の乾きが目安となります。

塗布

原液をきれいな刷毛、ウェス等で均一に塗布して下さい。図B参照
標準塗布量を参照にし、2回に分けて塗布しますので、塗布量の半量を目安にして下さい。

しばらくすると(15～20分後)溶剤が揮発して、粘性のある樹脂が残ります。
⇒ 気温、石材の状態によって時間は変わります。
(溶剤の揮発は室温等により変わりますが5分位ですぐに揮発するようでしたら塗布量が少ないので塗布回数をもう1回増やして下さい。)

拭き取り

乾いたキレイなウェスで表面に残った樹脂の拭き取りを行ないます。
拭き取り方法は図Cを参照して下さい。
拭き取りは角度を変えて見ながら、油分が残らないよう十分に行なって下さい。

再塗布

前記と同じ方法でもう一度繰り返し塗布作業を行なって下さい。

拭き取り

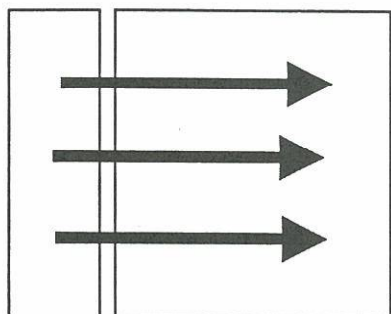
乾いたキレイなウェスで表面に残った樹脂の拭き取りを行ないます。
最終拭き取りは、薄膜が残らないよう十分に拭き取りを行なって下さい。
拭き取り後に乾バフをかけますと光沢が上がります。

養生

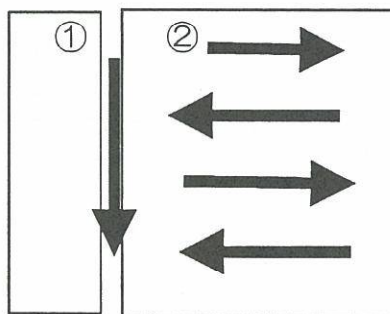
6時間は水がかからないようにして下さい。
12時間は一般歩行を避けて下さい。

塗布方法

図A 目地をまたいで塗布しない(悪い例)

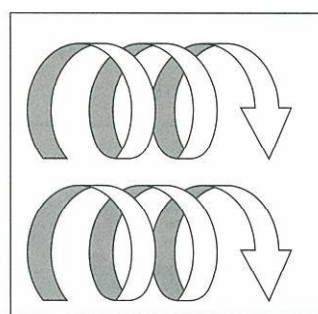


図B 目地を先に塗布してから石材1枚ずつ塗布する



拭き取り

図C 円を描くように拭取りを行なう



ウェットバーナー塗布方法

(御影石バーナー仕上げ専用)

予備テスト

- サンプル板等で、下記方法にしたがって塗布し、色調等の確認を行なって下さい。
色調は塗布直後ではなく数日後の状態で判断して下さい。
- 前記を参照に塗布施工が可能かどうか石材の状態確認をしておいて下さい。

前処理

イシクリーンシリーズ洗浄剤で石材の汚れを除去します。

乾燥

石材を十分に乾燥させて下さい。
モルタル目地の場合は、目地の乾きが目安となります。

塗布

原液をきれいな刷毛、ウェス等で均一に塗布して下さい。図B参照
標準塗布量を参照にし、2回に分けて塗布しますので、塗布量の半量を目安にして下さい。

ウェットバーナーは拭き取り作業はありません。

塗布面を手で触り樹脂が付着しないような状態で色相を確認して下さい。

基本的には、2回塗りですが1回塗布で意図する色相になる場合があります。

斜面、縦面では下部の方に液溜りができやすくなり、テカリが生じますので注意して下さい。

再塗布

前記と同じ方法でもう一度塗布作業を行なって下さい。

厚塗りしますとテカリが出て、雨天時等水がかかると滑りやすくなる場合があります。

⇒下記修正方法確認

2～3時間後に均一な色調になっているか確認を行ないます。

6時間は水がかからないようにし、一般歩行は避けて下さい。

養生

養生時間は、現場状況、気温によって異なります。

天候、石材の状態が良好にもかかわらず塗布方法により色調に濃淡が発生した場合は以下のような方法で修正を行なって下さい。

ただし石材は1枚ごとに浸透のしかたが異なる場合がありますので、全て同じ色調に仕上がるとは限りません。

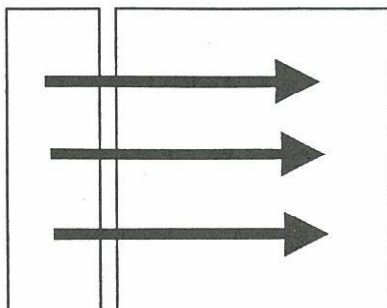
修正方法 修正部分だけでなく、石材1枚分にハクリセーフを塗布し薄く表面の剥離を行なう。
または、堅いブラシでブラッシングを行ない薄く表面剥離を行ない、再度ウェットバーナーを重ねて塗布する。

この場合も石材1枚単位で行なって下さい。

※ 必ず目立たない場所でテストしてから本施工を行なって下さい。

塗布方法

図A 目地をまたいで塗布しない(悪い例)



図B 目地を先に塗布してから石材1枚ずつ塗布する

